

(様式 7)

受付番号 第 (2022-15) 号

研究の概要 (オプトアウト公開用)

西暦 2023 年 1 月 1 日

臨床研究を実施する際には、文書もしくは口頭で説明のうえ同意を取得して実施をします。臨床研究のうち、研究対象者等（患者さん等）への侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いた研究や、余った検体のみを用いるような研究については、国が定めた指針に基づき、研究対象者等のお一人ずつから、必ずしも直接同意を得る必要はありませんが、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要とされております。このような手法を「オプトアウト」と言います。

本研究への協力を希望されない場合あるいはお問い合わせは、下記の担当者までご連絡ください。

審査課題名	ヒト受精胚を用いた X 染色体不活性化制御機構とその破綻により生じる疾患発症機序の解明
実施責任者	英ウィメンズクリニック 理事長 塩谷雅英
研究代表者	愛知県医療療育総合センター発達障害研究所遺伝子医療研究部 主任研究員・加藤君子
研究対象者	当院で体外受精治療を受けられ、治療に用いない胚を研究に使用させていただくことに同意をされた方
研究期間	2023 年 1 月 1 日～2027 年 3 月 31 日
研究目的・方法	<p><u>研究の意義・目的</u></p> <p>性染色体として、女性は X 染色体を 2 本もち、男性は X 染色体と Y 染色体を 1 本ずつもっています。このままでは、女性では男性の 2 倍 X 染色体の遺伝子が働いてしまうことになるため、女性では 2 本の X 染色体のうちどちらか一方の働きが抑制されます。このことを「X 染色体不活性化」と言います。女性の X 染色体は父親由来のものと母親由来ものの 2 本がありますが、このどちらの X 染色体が不活性化されるかは、着床周辺の時期にそれぞれの細胞ごとに決まります。この X 染色体不活性化の偏りが遺伝性疾患の重症化、流産や早期卵巣不全、精神神経疾患などの原因となる可能性も指摘されてきていますが、このメカニズムはほとんど明らかになっていません。</p>

	<p>そこで本研究では、X 染色体不活性化制御の乱れが胚発生に及ぼす影響を明らかにします。本研究の成果は、疾患の原因解明や、新たな治療法の創出、生殖補助医療の進展に貢献すると期待されます。</p> <p><u>方法</u> 受精後 14 日目までの受精胚を用い、FISH 法や免疫染色法を用いて X 染色体不活性化の様子を観察します。</p>
研究に用いられる試料・情報	廃棄予定の受精胚
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者様を特定できる個人情報は削除いたします。また研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際にも患者様を特定できる情報は含まれません。その他の事項については当院の個人情報保護方針に則り取り扱いたします。
お問い合わせ先	英ウィメンズクリニック 倫理委員会事務局担当 山本健児 電話：078-392-8716